

生活ワイド

感染の原因には、輸血、医療行為に伴う針刺し事故、静脈から行なわれる器具を用いた入れ墨(タトゥー)・ピア

慢性肝炎になると、初感染から20~30年で肝硬変へ移行し、肝細胞がんを併発するようになります。

C型肝炎ウイルスは、20~40%はウイルスが消えて肝機能も正常化しますが、60~80%は慢性肝炎へ移行します。

A型急性肝炎やB型急性肝炎に比べて症状が軽く、大多数の人は自覚症状がありません。

またC型急性肝炎では、HCVの慢性持続的感染により、肝臓に炎症の2種類の薬がありますが、かつてインター

HCVには、ウイルスの型に1型、2型があり、さらに、ウイルス量が高いタイプと低いタイプがあります。

日本に多いのは、1型

・高ウイルス量のタイプですが、この型に対して、インターフェ

ンは、5%程度の効果しか発揮できません。

前回(8月24日付)に続き、ウイルス性肝炎について、麻布医院(東京都港区)の高橋弘院長に聞きました。今回はC型肝炎についてまとめました。

C型急性肝炎

スの穴開け・針治療などが考えられます。有効な予防ワクチンはありません。精度の高い検査が導入されるようになつたため、輸血によるC型肝炎ウイルスの感染は、ほとんど見られなくなりました。

しかし、医療行為に伴う針刺し事故による感染が多いため、医療従事者の感染対策が必要です。

肝炎ウイルス性

C型肝炎

器」といわれ、慢性肝炎の状態では、ほとんど自覚症状がありません。また、肝機能が急激に悪化することもあります。

しかし放置すると、5~30という長い期間をかけて肝硬変に進行して肝不全を起こします。

肝がんは、日本において、生命が脅かされますが、自然治癒することはまれです。

肝臓は「沈黙の臓」で、肝がんを合併したりして、生命が脅かされます。

しかし放棄すると、5~30という長い期間をかけて肝硬変に進行して肝不全を起こします。

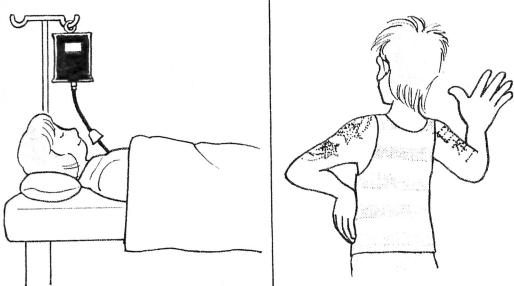
肝がんを引き起こす要因の70~80%がC型肝炎です。

感染の原因には、輸血、医療行為に伴う針刺し事故、静脈から行なわれる器具を用いた入れ墨(タトゥー)・ピア

C型肝炎の主な感染経路】

輸血

入れ墨



感染の原因には、輸血、医療行為に伴う針刺し事故、静脈から行なわれる器具を用いた入れ墨(タトゥー)・ピア

C型慢性肝炎

採血をして血清中のHCV抗体を測定することにより、感染の有無を調べることができます。C型急性肝炎では、HCV抗体が出現

した。しかしその後、イン

ターフェロンに内服薬のリバビリンを併用す

る治療が始まり、続い

てペグインターフェロ

ンとリバビリンの併用

を促進するので、鉄制限食を取り入れるよう

にします。

肝臓に良いと思われる

た。しかし放棄すると、5~30という長い期間をかけて肝硬変に進行して肝不全を起こします。

そのためには、肝臓の炎症の原因になるウイルスを駆除するか、あ

りません。

感染の原因には、輸血、医療行為に伴う針刺し事故、静脈から行なわれる器具を用いた入れ墨(タトゥー)・ピア

の第4位にあり、年間3万人を超える方が亡くなっています。肝がんを引き起こす要因の70~80%がC型肝炎です。

診断は、血液検査を各自治体で、住民基本健診時の検査(一部無料)に加え、保健所や委託医療機関で肝炎

検査、腹部コンピュ

ーター断層撮影(CT)検査を行います。さら

に、確定診断のため腹腔鏡検査や肝生検を行なっています。

急性の6~8割が慢性化

進歩する治療法

1992年から、インターフェロン療法が開始されました。インターフェロンはHCVの増殖を阻害する薬物治療を行うと、90%以上の確率でウイルスを駆逐することができます。

しかしその後、インターフェロンに内服薬のリバビリンを併用する治療が始まり、続いてペグインターフェロ

ンとリバビリンの併用を促進するので、鉄制限食を取り入れるようになります。

肝臓に良いと思われる「レバー」や「貝類」は鉄を多く含むため、食べ過ぎないよう

に注意が必要です。またインターフェロ

ン治療では、うつ病や間質性肺炎などの副作用が出ることがあります。

また、貧血のある方、白血球が少ない方、糖尿病のある方は治療を受けられないことがあります。

治療に当たっては、肝臓専門医あるいは肝臓専門医療機関を受診して、適切な検査、診断、治療を受けてください。

鉄分に注意

C型慢性肝炎では、鉄分の過剰摂取が悪化

そのため、治療の必

要性、治療効果、副作用などを医師と十分相

談した上で、治療の方

法を決定してください。

また、貧血のある方、白血球が少ない方、糖尿病のある方は治療を受けられないことがあります。

治療に当たっては、肝臓専門医あるいは肝

臓専門医療機関を受診して、適切な検査、診

断、治療を受けてください。



鉄分の過剰摂取は悪化を促進するため、貝類やレバーなど鉄分が豊富なものを取り過ぎないように注意が必要だ